

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 12 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500265		
法人名	株式会社 くれせん		
事業所名	グループホーム すまいる焼山		
所在地	〒737-0936 広島県呉市焼山東1-19-47 (電話) (0823) 33-7373		
自己評価作成日	R2・11・20	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3490500265-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 2 年 12 月 23 日 (水)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームすまいる焼山は周りを山で囲まれ、のどかな雰囲気が特徴です。地域との交流も盛んで、地域の祭りや餅つきには毎年、参加し入居者様も大変喜ばれています。家族的な雰囲気の中で、職員と一緒に料理をしたり、散歩に出かけたりして、利用者に寄り添い笑って生活できる我が家を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームすまいる焼山は、自然豊かで鳥のさえずりが聞こえる静かな環境で、四季を感じられる閑静な住宅地に位置している。近くに公園や職員宿舎もあり、スタッフも近隣から通える距離の方も多く居られる。家庭的な温かさ作りを心掛け、その人らしく安心した生活が送れるように健康面・安全面でも看護職員・10数名の介護福祉士が、しっかりとサポートされ、家族も「安心して任せられる。」との声も多く聞かれる。月1回、すまいる便りで、日頃の様子を写真を通して家族の笑顔を見る事が出来、感謝されている。今年は特にコロナ禍において、面会が難しい中、工夫され、ホーム内で運動会やスタッフのキーボードに合わせ歌をうたって楽しんでおられる。尚、職員は、研修や勉強会を重ね、質の高いケアに取り組み、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「自然に囲まれた静かな環境と家庭的なあたたかさ作りを心掛け安心して暮らせる施設」を掲げ、実施している。	施設理念は、職員全員の目に留まる玄関や事務所に掲示しており、スタッフ会議等で、出来ているところ、出来てないところ等、話し合い、日々の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	例年は地域の祭りや餅つき大会等の行事に参加するなど交流が持てたが、今年はコロナウイルス感染予防の為、殆どの行事が中止となる。	例年は、地域の祭りや餅つき大会等、参加していたが、コロナ禍において、地域の行事が殆ど中止になっていて、交流が難しい。そんな中でも民生委員の方々が、オムツ券等を持って来て下さり、加えて、地域の情報も伝えて下さっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進委員会を通して自治会、民生委員、、老人会に情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年は2か月に1回実施しているが、今年はコロナウイルス感染予防の為、5月より中止となる。	運営推進会議は、例年、2ヶ月に1回、ホームの取り組み・状況等を報告したり、出席者から地域の情報や提案を頂き、開催していたが、今は、書面のみ開催となっている。今後、運営推進会議の構成員の方々には、郵送でやり取りをして、ご意見を聞かせてもらう体制を取る予定である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターには運営推進会議に出席していただき意見やアドバイスもらっている。市役所には介護保険の更新時や不明な事がある時は足を運んだり、電話で問い合わせ、相談をしている。	市役所保険課、福祉課へ各種相談を行い、書類の提出等を行っている。地域包括支援センターとは、運営推進会議に出席してもらい意見交換している。現在、コロナ禍においては、欠席されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、不適切だと思われる対応があれば、皆で検討し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、事業所内で、研修や及び3ヶ月に1回は、身体的拘束適正委員会を行い、身体拘束についての弊害を良く理解しており、拘束しないケアを実践し、全ての職員の意識向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会を実施。職員全体で虐待に繋がりそうな段階で注意し合い対策を考える。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見制度を利用されている方もおられ、手続きのサポートをしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の契約時、説明する時間を十分に設け、納得のうえ入居していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナの影響で面会禁止となっているが、電話やお便り等で状況を報告し、意見が出しやすい話し方を心掛けている。	家族の意見・要望は面会時、電話等で聞いているが、今は、少ない。(看取りの事・面会等の事)職員全体で受け止め対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員個人個人の意見や悩み等を聞き、働きやすい職場になるよう努めている。	1ヶ月に1回の会議等で、職員の意見や提案を聞き、日々の業務での改善点等話し合っている。(体位交換・利用者の呑み込みが悪くなっている・クッション使用・勤務調整・行事の事等)会議で検討し運営に反映されている。言い易い雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用通知書にて掲示している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修へ参加。費用負担の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	呉市主催の研修、県介護福祉士会しゅさいの研修の参加		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネジャーから情報を収集し、入居前に自宅を訪問。生活 環境を確認し本人、家族に細かく聞き取りを行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	密に連絡をとり、オープンクエスションを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族と連携を取りながら、変化や状況に応じて他施設の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様本位で考え一緒に寄り添いながら色々な事に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者に何か変化があった時や可能な限り要望を伝え、関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人の面会は基本的には歓迎し、面会できない時には電話で話していただく等、配慮している。	家族の面会や友人・知人の来訪があり、交流の支援をしていたが、今年に入り新型コロナウイルス感染予防の為、支援出来ていない。家族が病院受診を行い、短時間の交流をされている方も居られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の思いを配慮し、デイルームでも落ち着いて過ごしていただけるような環境作りを実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時、今後も相談などお聞きできる事を伝え、電話や来所された時には対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を聞き取り、自分で出来る事はしていただいている。。聞き取りが困難な方は日常生活の会話の中で意向をくみ取り職員間で共有している。	モニタリングを実施し、日々の様子から把握しながら、本人本位の視点から、個別支援内容を検討している。(編み物・歌・ぬり絵・習字・新聞購読等)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ケアマネジャーから情報を収集し、入居前に自宅を訪問し、細かく聞き取りを行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今までも生活歴を把握し、好きな事は続けていただきながらその日の体調、気分に応じて対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	会議ができない時は、連絡ノートや業務日誌などで状況を報告しチームで情報を共有している。	家族から聞き取りをしている。日頃の気づきは、気づきメモに記入し、ケース記録を見ながら、担当者会議を開催し、通常、見直しは、6ヶ月に1回、行っているが、利用者の状況の変化があれば、その都度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、個別にケース記録に記入し、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人のニーズに合わせた介護計画を作成し。状態に変化があれば、その都度、見直し、検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	施設のすぐ近くの公園を散歩したり、草取りなど手伝っていただくことで、楽しみが持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に一回の往診を実施し、頻繁に連絡を取っている。	利用者は、協力医療機関をかかりつけ医としており、月に1回、往診があり医師による24時間体制で、利用者・家族とも安心して健康面に於いて任せられる。希望があれば、往診歯科の利用もできる。他科の受診は、通常、家族対応ではあるが、都合のつかない時には、職員の対応としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内の看護師と、常に連携をとり、何か変化があれば相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療機関のソーシャルワーカーと頻繁に連絡をとり、退院に向けての連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師、ご家族と話し合いながら、ご家族、ご本人の思いをくみ取っていけるようとりくんでいる。	契約時に於いて「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を事前説明し、同意を得ている。重度化した場合は、今度の方針を主治医・看護師・家族・管理者・職員等で対応を検討し利用者、家族の意向に沿った適切な医療が受けられるよう配慮している。今まで2人の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職場での勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の指導のもと、避難訓練を実施している。	年2回、避難訓練を実施し、うち1回は消防署の指導の下、初期消火や夜間想定も実施している。地域との連携も話し合っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保odd 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日々の業務の中で職員の言葉がけが馴れ馴れしいなど気になることがあるが、その都度注意している。個人情報取り扱いに留意し守秘義務を厳守している。	プライバシー保護の研修を行っており、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしているが、全員とは言えない。お互い注意合っている。	利用者との関係が、つい馴れ馴れしくなり、言葉遣いが安易になる事があり、お互いが注意し合えるよう期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の進行により、意思表示が難しくなっている方もおられるが、日頃の関わりの中で本人の意向をくみ取り支援につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様本位で考え、出来る限り本人のペースで過ごしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で化粧される方もおられたり、定期的な訪問美容では髪の毛のカットと化粧をして気分転換ができています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べ物の好みを聞き、定期的に野菜切り等手伝っていただきながらホーム食を提供している。	食材は3食とも配食業者から調達しているが、ご飯とみそ汁は、ホームで、作っている。月に1回は、手作りでホーム食として、ちらし寿司・巻き寿司・ソーメン流し・お好み焼き等を作り、喜ばれている。時には、おやつ作りをして利用者も一緒におはぎを作り、昔取った杵柄を発揮されている。行事食で弁当を取ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は常に記録し、職員で把握し少なければ促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	週1回の訪問歯科によるクリーニングや、1日3回の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、可能な限り、トイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄がスムーズに困ることなく行えるよう、排便コントロールする方も居られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量や薬の調整など看護師と医師とで連携し、排泄管理を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調や気分に配慮しながら、無理強いはず、出来るだけタイミングに合わせて対応している。	入浴は、週2回を基本として、体調に応じて、清拭・シャワー浴の支援をしている。リフト浴があり、出来るだけ浴槽に浸かれる様、支援されている。毎日、入浴剤も使用しており、ゆったりと入浴できる環境になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣やその日の体調や気分に依りて、日中も休んで頂くなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医、薬剤師、看護師と連携し対応している。職員も薬について把握している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の能力に応じてお手伝いをお願いしたり、レクリエーションなど行い楽しめる時間を作り、気分転換している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年はコロナウイルスの影響で外出が出来なかった為、室内で行事を多数行った。	日頃は、近隣の散歩や買い物、花見、外食、ドライブ等を行っていたが、今年に入り、新型コロナウイルス感染予防の為、外出出来ていない。しかし出来るだけ外気浴を行える環境にあるので、草抜きや近場の公園には、出掛けるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人用のお金を預かり、要望があった時には了解を得て対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙のやり取りや直接ご本人と電話で会話して頂くよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員で分担して掃除を行い、清潔保持に努めている。壁には季節に合わせた手作りの作品を飾り温かい雰囲気づくりを心掛けている。	少し高台にあり、居間は、大きな窓から陽光が入り明るい。木の温もりのある大きなテーブルと椅子が配置しており、思い思いに過ごされている。10月は、ユニット毎で、2組に分かれ運動会を行った。壁面には、共同作品の季節を感じさせる壁画（紅葉・絵馬等）や行事写真が貼られ、生活感があり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間では、無理強いせず、ご本人の体調や気分に応じ毎日トランプやかるた、体操などを楽しむ時間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使用していた馴染み物を出来るだけ取り入れご希望を聞きながら心地良い空間となるように心掛けている。	自宅で使い慣れたテレビ・筆筒・ラジオ・ラジカセ・仏壇・テーブル・椅子・鉢植え・家族写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の残存機能を生かして、自立した生活が出来るよう環境整備を整えている。		

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない コロナの影響で行えていない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない コロナの影響で面会中止
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない R2.1月より中止
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームすまいる焼山

作成日 令和 2年 12月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	利用者に対しての態度や言葉遣いが馴れ馴れしい時がある。	尊厳のある言葉がけを行う。	接遇の研修を施設内で行う。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。